令和７年９月定例会（第３回）　9月1日

◆産業建設常任委員会委員長（佐藤昭生）　産業建設常任委員会の行政視察について報告をいたします。

去る７月28日に千葉県館山市、同月29日に茨城県筑西市において、産業建設常任委員会５名で行政視察を行いました。

まず、千葉県館山市ですが、県庁所在地である千葉市から約70キロメートルの距離にあり、房総半島南端に位置し、南房総国定公園に指定された34キロメートルにわたる変化に富んだ海岸線と緑あふれる山野に囲まれています。羽田空港からは東京湾アクアラインを利用した場合、移動距離が約82キロメートルで所要時間は１時間強です。千葉県で５番目の市として誕生し、市制86年となっております。市中心部は内房線沿線にあり、安房地域における人口・商業・産業集積の場となっており、政治・経済・文化の中心都市です。人口は令和７年７月１日現在で４万2,356人、面積は110.05平方キロメートルです。

今回の調査事項は、館山ジビエセンターと館山市有害鳥獣焼却処理施設についてです。ジビエセンターは、令和２年に道の駅の開設に併せて、旧収集管理センターの建屋の一部を改修して整備されています。施設整備費用は、全額が市の負担で1,200万円です。管理運営方法は指定管理で行っており、期間は令和３年12月から令和18年３月末となっています。指定管理料は本年度から最低賃金上昇分を加味して、年間132万3,000円ということでした。

指定管理の代表者は、館山市地域おこし協力隊として獣害対策支援に従事し、任期終了後に起業して指定管理者となっています。施設建設の背景や目的については、捕獲活動後の処理負担を軽減することや食のまちづくりの推進と資源としての活用を行い、適正に処理したジビエをご当地食材としてブランド化することを目的としています。

有害鳥獣焼却処理施設については、焼却炉4.78平方メートル、冷凍保管庫9.72平方メートルを含む102平方メートルの鉄骨平家建ての施設です。令和５年度から運用を開始しています。施設整備費用は、9,790万円。財源の内訳は、国3,886万2,000円、県850万円、市5,053万8,000円となっており、管理運営方法は直営です。会計年度任用職員を５人採用し、１日２人体制で対応しています。

これまで、捕獲個体の処理方法は埋設が基本でしたが、埋設作業に対する労力の負担軽減、埋設地の確保、将来的な環境汚染等の問題解決のために焼却施設を整備しました。焼却能力は、１時間当たり最大80キログラム、１日当たり最大400キログラムです。年間処理計画数は４万9,540キログラム。内訳は、イノシシ1,440頭、鹿30頭、キョン50頭です。個体の受入れについては、イノシシ・鹿・キョン・猿・アライグマ・ハクビシン・タヌキ・カラス等の鳥類など、館山市内で捕獲された個体が原則で、無償受入れとなっています。また、市内で起こったロードキル個体も、道路管理者から連絡を受けた後、受け入れています。

以上が館山ジビエセンターと館山市有害鳥獣焼却処理施設についての報告です。特筆すべき事項としては、獣害対策支援に従事していた地域おこし協力隊の隊員が、経験を生かし地元に残って起業し、指定管理者になっているということでした。

次に、茨城県筑西市についてです。

筑西市は、茨城県の県西地域北部に位置し、つくば市の北西約25キロメートル地点の筑波山の西側にあります。2005年（平成17年）に下館市、関城町、明野町、協和町の１市３町が対等合併して誕生しました。中心市街地のある旧下館市は、もともとは城下町で、江戸時代以降に商業都市として発展しました。筑西市役所本庁舎は、2017年に下館駅前一等地に建つ複合商業施設スピカビルをコンバージョンしたもので、市民、地元自治会、市議会等の熱心な取組の下、空きフロアが多いビルを再生したエスカレーターつきの６階建庁舎となっています。

また、農業が盛んで、米のほか、生産量が県内１位である梨、こだまスイカ、イチゴのとちおとめなどがあります。人口は令和７年７月１日現在で９万6,545人、面積は205.4平方キロメートルです。

今回の調査事項は、企業誘致・立地活動の推進と道の駅グランテラス筑西についてです。

企業誘致・立地活動の推進については、公益社団法人茨城県開発公社と連携を図り、企業誘致に関する部署を新設した平成25年から昨年度までで、新規増設を含む19社の誘致と、約580人、うち市内採用220人の新たな地域雇用の創出につなげてきました。首都圏に近く平地が広い立地を生かし、複数の工業団地が造成されており、関東内陸工業地域の一角をなしていますが、新たな工業団地の整備が喫緊の課題となっています。そのため、新規開発候補地の適地選定及び開発手法等について庁内関係部局と茨城県開発公社で協議を進めているとのことです。

道の駅グランテラス筑西は、令和元年７月にオープンして６年になります。敷地面積は４万7,709平方メートルで、客層のターゲットは３世代を対象にしています。これまでの実績は、レジの数で年間120万人、土・日は１日に5,000人から6,000人の来客数です。現在の駐車台数は361台（別途職員駐車場98台あり）です。

（１）物産・直売・レストラン・カフェ棟、（２）雑貨・ベーカリー棟、（３）体験・交流・テナント棟、（４）イベント広場、（５）屋外スペースといった市が整備したゾーンが５か所あり、国が整備したトイレ情報交流施設棟もあります。農産物・商品の納入出品者は240人で、そのうちの70%が筑西市内の方です。また、陳列している品物は市内のものが中心で、それ以外は筑西市と交流のある市の商品です。

とにかくコンセプト設計がしっかりしています。駅長が百貨店勤務の経験者で、催事の内容、売出し商品のセンス、充実したチラシ等、文句なしのものでした。さらに、駐車場不足の解消及び遊具施設の充実のため、隣接地に駐車場330台を確保し、遊具広場を設置するため、約３万2,000平方メートルの拡張を進めています。

以上が報告となります。豊後大野市内５つの道の駅とは規模が違い過ぎて比較になりませんが、コンセプト設計は集客とリピートを生み出す基準軸です。メニュー、接客、広告戦略等を改めて見る時期が来ているかもしれません。

終わりに、館山市、筑西市の皆様には、暑い中、懇切丁寧なご説明をいただき、改めて感謝申し上げます。

以上で、産業建設常任委員会行政視察の報告を終わります。